

第 45 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 26 年 2 月 25 日(火) 午前 10 : 30～12 : 00
2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 8 名
- 出席委員 6 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、稲井信也、須貝昭子、
高谷和彦、中村 保、牧野直子
- 以上 6 名
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
永田 純子 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 エール・マガジン
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

今回は、毎回土曜日に放送している「エール・マガジン」というコーナーをお聴きいただきました。このコーナーは12年以上続いていて、毎週さまざまなジャンルのかたをゲストにお迎えしお話を伺うといったものです。土曜日の番組は、平日のプログラムとは少し雰囲気を変え、市民パーソナリティではなく、関西を中心にタレント活動を行う人材を起用し、5時間の生放送をしています。「エール・マガジン」は、その中のひとつのコーナーです。過去にはトランポリンで北京オリンピックに出場した廣田遥選手が中学生のときに「将来オリンピックに出たい」という夢を語ってくださったり、昨年春から18歳でプロ棋士になった千田翔太さんが、小学生のときに「将来はプロ棋士になりたい」という夢を語り、実現されました。子どもから高齢者まで幅広い年代のゲストに話しをしていただくことで、目標を確信して次のステップに向かっていただこう、また聴いてくださっているかたには、そのかたの頑張りや夢を聞いて、元気に、前向きになっていただこうというような思いで放送しています。今回その中で、1月11日に放送した「タッキー816 応援団」のみなさんをゲストにお迎えしたときのものを聴いていただきました。応援団のみなさんは、私たちタッキー816を応援してくださっている市民グループです。聴かれるラジオはどういったものなのか、また平成26年度に計画されている防災ラジオドラマの制作についての呼びかけなどをされました。それでは、ご意見を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

(2) 審議

委員：別に、言うことはないですね。趣旨もはっきりしていますし。いろいろな地域で防災ラジオドラマを組み立ててもらって、タッキーで放送されて発表できるような場所があると、おもしろい番組が制作されるのではないかという期待はあります。でも、聞き手の個性強すぎませんか？出過ぎ、とんがり過ぎ、みたいなのがちょっと感じられました。それが丸ければ良いなという感じがしたんですけど

ね。

委員長：私もちよっと感じたんですけど、言葉のやりとりが、良い意味で若さの、学生同士の話のやりとりの感じと取っても良いんですが、それをちょっと逸脱したような言葉が頻繁に出だして、言葉の雑さというんですかね。

委員：個人的には、聞き手は非常に個性的でスピード感があって良いんじゃないかな、と感じています。非常に軽いノリ。たとえば、変な話ラジオですから、にこっと笑っても分からないんですよ。そのときににこっと笑って、「素晴らしい笑顔ですね」とフォローするとかですね、そういうスピード感とかね。たぶん、評価は二分されると思いますけれど、私、個人的にはもう少し個性を出して「なんや、こいつの話し方は」というくらいでちょうど良いかな、と考えています。ラジオというのはそういう、視覚じゃなくて耳だけで聞こえるものなので、パーソナリティが言葉の威力を発揮していくかは、相当オーバーめにやらないと分からないという見解を持っています。そういう意味では、私は逆にもっと個性を出しても良いというくらいの思いがあります。ドラマについては、正直言って、タッキーの最大のスポンサーの一つである箕面市のトップが、税金を使って支援するには、一番大切なことは防災と災害に対する備えだと繰り返し明言しているわけなので、それを受けて、どちらかという今回のドラマは前提条件というかシチュエーションを付けて、たとえば、学校でも学校の中で地震が起こるのか、通学時で起きるのか、いろんなケースがあるので、一週間の備えとか自治会に入りましょうなどといった一般的なことではなく、もっと身近なシチュエーションをつくって、できれば、行政がしていることをフォロー、バックアップする積極的なスタンスになれば良いかなと、そんな思いで作りました。効果音を入れると全然違う。だから、企画のミソは、タッキーで録音をし、効果音を入れるというのが一番のミソ。シナリオの作り方などは8月に講習会を開く予定ですので、ぜひみなさんのバックアップもいただければと考えています。

委員長：どうもありがとうございます。確かに、聞き手に対しては二分すると思います。

委員：ぶっちゃけて言うと、このメンバーからこぞって反対されるくらいがちょうど良いのかな、と。(一同笑い)

委員：聞き手のことですが、最初、応援団のみなさんにお話を聞いていたときに「こいつけんか売っとんかいな」というような、言い方が始まってね。自分も何度か出演させていただいていたので、いつもやってることやね、という風に聴いていました。出演者の年齢層に合わせた話し方、学生さん相手にしゃべるとき、中高年のご婦人層にしゃべるとき、また男性陣にしゃべるとき、高齢者のかたにしゃべるとき、TPO が考えられたらそういう印象は無いと思うんですけど、それがまた彼の特徴で、それでないと10年以上この番組を続けられることも無いのかな、とも思ったりしています。あと、防災ラジオの取り組みですが、自治会とか地域の講習会とか勉強会、コミセンの勉強会のときに、ドラマを聞いてもらって「みなさんの家庭では、地震災害についてどのような行動が取れるのか」とか「どのようなことが考えられますか」というように一石を投じるためのひとつのデモ的な使い方をしたら、また幅広く中身が生きてくるんじゃないかと考えました。

委員：パーソナリティの役割として、個性は個性で有って良いと思いますが、引き出し方がちょっと足らなかったかなと感じました。防災ドラマの中身というのは、素人さんたちの防災ドラマにしては伝わるものもあったし、素人っぽさが良いというかね、余計効果的みたいな、一生懸命演じているのが好感が持てるような番組づくりになっているし、さすがにタッキーに効果音を入れてもらってレベルが上がったと思います。だから余計パーソナリティの引き出し方がもう少し…「なぜこの防災ドラマをつくったのか」とか。最初ちょっと気になったのは、出演者に対して失礼な言い方というか、ちょっと耳障りでした。パーソナリティの役割として、この質問の仕方はどうかな、みたいなのは感じました。ここで何を引き出すのか、もう

少しきちんと真摯に聞いていただけたらと思いました。そこは残念だったかなと思います。

委員：いまの話ですが、パーソナリティのかたの、ちょっかいを出しながら、刺激しながらという風なところがあるんでしょうけど、事前に、タッキーのこれからの放送のあり方について、それぞれの意見を出してもらって、そこにぶつかろう、という打合せがあったので…。ただ、段々時間が迫ってきて、防災ドラマの話ただけど、一番それを言おうと思って来たんだけど「大丈夫かなあ」とちょっと冷や冷やしましたが、最後にはそこに落ち着いて、ということになりました。防災ドラマの取り組みが一番話したいメインのところだったので、もうちょっとそこをきちっと丁寧にお伝えしたかったという思いはあります。パーソナリティのかたはちょっと若者受けを意識したトークというか、そういうノリでやってきてらっしゃるのかな、と。ラジオのリスナーが、若い人がいまラジオを聴いていないから、そういう人にも聴いてもらいたい、ということを書いてらっしゃったので、私たちは、防災ドラマという、どちらかというとそれしか情報源の無い高齢者のかたにいかにしたら聴いてもらえるか、という風に思っていたので、意識が違うんだなという風に思いました。ラジオで放送されたことがきっかけになって、いろんなところでこの防災ドラマづくりが広がると良いなと思っています。

委員長：そうですね。いろんな考えがあつてのやりとりかも知れませんが。自分の一つの領域を考え出して、そちらのほうで演出できるようなことができれば、また違う意味で、成長した姿をみなさんにお聞かせできるかと思いますので、その点また制作の方でいろんな考えを注入していただいて、そっちの方向へ上手に持って行っていただければと思いますのでよろしくお願いします。あと、防災ラジオドラマの方ですが、できることなら、ある団体やグループが独自でいろんな風に考えた、演出した防災ドラマを作ってもらって、それをみんなで集めてコンテストして、それを発表して、そういったひとつの番組チャンピオンみたいなものを作ってやったらおもしろいかなと。

委員：防災ラジオドラマのコンテストはすでにあるのですが、地域で固まって作ろうというのは初めてだと思うので、箕面市とも連携して、要するにドラマを作ることより前提条件としてシミュレーションをいろいろ考えて、非常に身近な、自分たちの防災訓練とか防災意識を高めようというのが一番のねらいで、そのツールとして防災ドラマを作ろうかというだけの話なんです。そこはぜひ箕面市全体で取り組んで、それをむしろタッキーが受け身じゃなく、「タッキーとしてこんなに防災については力を入れている」とか「市民を巻き込んだ」というイメージが上がれば、非常に意義があるんじゃないかと思うんです。

委員：タッキーのホームページの中で、あの防災ドラマを聴くことは可能なんですか。

事務局：著作権さえクリアできれば、できます。

委員：頭出しでも良いので、こんな防災ドラマ、というのが聴けたらおもしろい。

事務局：欠席の委員からのご意見をご紹介します。「まず、パーソナリティについて。押し付けがましい、ゲストへのリスペクトが感じられない、ゲストの業界、活動についての勉強不足を感じましたが、ただし、12年以上の長寿番組ですので、コアなファンもいらっしゃるでしょう。また、番組の意義は、コミュニティFMの役割にも合致しており素晴らしいと思います。あと、防災ドラマについてですが、できればタッキー816としてもご協力をお願いしたいと思います。募集告知、優秀作品のオンエア、制作者の番組出演、市長賞の依頼など、お願いできればうれしいです。結果的に市民の防災意識が高まってくれば良いと思っています」というようなご意見をいただいております。パーソナリティに関しては、みなさんからいろいろなご意見が出るということは想定しておりました。敢えてそういった状況の中で彼を起用しているのは考えをもってのことで、平日の情報系ワイド番組とはひと味違った土曜日編成というこ

とで起用していますが、そんな中で箕面市民のみなさんに愛していただけるようなかたちにもっていきたいと考えています。市民パーソナリティとは違った視点で番組に取り組む姿勢が持っていますので、その辺はこちらでも買っていて、聴いているかたにどう届けるか、ということ意識して番組づくりをしております。たとえば市民パーソナリティでは、ゲストに対して失礼のないように努めてくれていると思いますが、ラジオで流れた先のことをイメージするという部分が難しかったりする場合もありますが、それを飛び越えて、大げさに言うと、目の前のゲストよりもいかにリスナーに届くかということを考えています。ただ、いろいろな意見があるということはまだそのバランスが悪いんじゃないかという風に理解しました。今後、より良くできるように考えていきます。

委員：あんまり指導してしまうとね…変な話。若い層に聴いてもらえたことはよかったことです。ふつうだったら、市民団体が出ているものなんて聴きません。彼のファンとか若い層にドラマ作りについて聴いてもらえたことが出演者側にとっては一番のメリット。我々の内々じゃなくて、リスナーに届けて反応がある、というのが一番ラジオに必要なこと。どうしても市民団体の話は聴いても誰もおもしろくないから、それでは市民団体のPRにはならないと思っているので、むしろ茶化したりなんかを含めても、ああいうやり方で市民団体の活躍が広がっていくのが市民団体にとって十二分のメリットで、はっきり言って今までの我々の層だけでやっているんなら別にこんなところで出演してPRすることも無いわけなので、前と違った、今まで活動に関心を持っていない層にどうやってPRしていく、というのはものすごく魅力的な感じはさせていただいていました。

委員：例えば3つ彼の個性が出たら、1つやんわりしたところはほしいかなというのはありました。

委員：自分の番組がどう聴かれているか、聴いている方の声をいっぺん自分なりに知ってもらおうということは大事なかな、と思います。あくの強さというのは私は、ある程度あっても良いかなと思いますが、ご

自身がそういう風に、どういう風に思っているか、知りたいと思っているかどうか、というのは聞いてほしい、これからの番組づくりに生かしてほしいなど。

委員：最初の打ち合わせのときに、彼は初めからそういうつもりだったんですよ。「何でも、とにかく日頃思っていることをぶつけてください」というね、初めからけんかを売るつもりだった。

委員：彼の個性は、少しは直してもらうことがあるとしても、もっと個性的でも良いかな、というイメージなんですけどね。

委員長：パーソナリティの個性を殺すのではなく、その人の個性プラス箕面に合った感じに味付けするというのも大事。そのために何をしたら良いかと言うと、辛子をぼんと入れるのも、わさびをどんと入れるのもその人の個性でよいと思うんですけど、わさびだけだと「なんや、この味」ということになるので、そこにスタッフがとろっとした中華にするような、そういうものを入れると、また違った味で緩和されておいしいかな、と。それも大事じゃないかな、と。みなさん意見頂いてありがとうございます。それでは、その他のことで、何かありましたらどうぞよろしくお願い致します。

委員：プロではないけれども、おしゃべりをする、例えばお話し会や人形劇をやっている人たちだとか、そういう活動をしている箕面のかたを対象に講習をして、上手くその人たちも使っていく、あるいはドラマ仕立ても含めて使っていく、とかそういうことがあっても良いんじゃないかと思います。あとは、防災に関してですが、しくみとしてきちっとすることが必要なので、例えば災害があったときに、身近な情報、「地震で何かが倒れました」とか、そういう情報がタッキーに集中して入る、各エリアで情報をくれるかたを登録して、何かあったときには行ってもらえる、そういう「〇〇委員」みたいなしくみを作りもあわせて必要じゃないかと。そういうのがきちっとしていれば、タッキーも防災に対して「こんな風にバックアップしています」と具体的に目に見えるじゃないですか。目に見えないも

のをいくら言っても私は無駄だと思っているので、ちゃんとしくみとして目に見せることが今後タッキーにとっても必要じゃないかな、と感じています。

委員：普段も含めて、何かあったら、タッキーに情報をきちっと伝達して、それをタッキーで災害情報とか身近な情報として提供するしくみ。

委員長：似たようなことはしてるんじゃないですか。ガソリンスタンドからの交通情報とかパーソナリティに対しての電話とか、そういったのはあるのはあるんですよね。

事務局：はい。そういった意味で市民パーソナリティを起用しています。各地域に市民パーソナリティ、市民レポーターが住んでいます。今年は地区防災委員会とのネットワークを作りたいと考えています。災害時に先方から情報を頂くという状況はなかなか難しいかと思うので、必要に応じてこちらから情報をいただけるようなネットワークづくりを強化していきます。

委員：タッキーとして何かあったときの緊急情報網として箕面市内に例えば100人のネットワークを持っていますとか、数がちゃんと具体的にあることが大切なんですよ。タッキーが防災に対して存在価値を発揮するには、能動的にそういうしくみをきちんと整備することが必要じゃないかと考えています。

委員：リスナーとしてじゃなく、自分もいざというときは発信源になるんだ、なれるんだ、ということでダイレクトに「おらがタッキー」というそういう人を増やしていく、そうしていくと見る目も意識も変わってくるじゃないですか。しくみがないと、普段そういうことを思っただけでも形にならない。

委員長：出演されたかたがたを区分けし、種別してということまではやってないんですよね。

事務局：そうですね。「白島で何かあったときに白島のこの人に聞いてみよう」というネットワークは持っていますが組織化は…

委員：カード1枚で登録していくとか。それがどれくらい効果があるがというのはやってみないと分からないですけど、ちゃんとした、目で見えるしくみをつくっていくということがそろそろ必要だと。

委員：それを一から作るのではなく、もうネットワークはもっているんで、それを「見える化」するだけでね。

委員：もう一つ、平日の午後に音楽だけの番組をやっているのが、なんか手抜きのような気がするんだけど。深夜の音楽放送はいいのですが、昼間というのがちょっと引っかかる。ぼちぼち改編期に入るので、もう少し有意義な放送を放り込んでもらえないかと思っています。

事務局：はい、考えます。

委員：難聴地域には、ネットで聴いてもらう？

事務局：とりあえず現状で、インターネット放送は、全体の番組の予算を落として、ネットの著作権代に回したという状況で聴けるようにはしました。

委員：それを、もっと普及させないと。例えば、PRもなかなか難しいので、聴いてもらったら Facebook じゃないけど、「いいね」ができるかどうかは別として、キャンペーン期間を作って、普及のために企画をしないとなかなか広がっていかないよね。それをやっても広がっていかどうかだけど、でもやらないと広がっていかないの、そういうしくみ。

事務局：何かキャンペーンと言いますか、ちょうど再来年度が20周年になるので、いずれにしても何か大きなイベントをすることを考えていま

すので、そのときに今頂いているご意見も含めて考えたいと思います。

委員長：長時間ありがとうございました。これで終わります。

一 同：ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 26 年 2 月 25 日

箕面 FM まちそだて株式会社

番組審議会